

2023年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年3月17日

上場会社名	株式会社一寸房	上場取引所	東
コード番号	7355	URL	https://issun.jp/
代表者	(役職名)代表取締役社長	(氏名)上山	哲正
問合せ先責任者	(役職名)取締役管理部長	(氏名)加藤	力 (TEL)011(215)0061
四半期報告書提出予定日	2023年3月17日	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 無		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

1. 2023年7月期第2四半期の連結業績(2022年8月1日~2023年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年7月期第2四半期	598	5.3	1	△97.6	2	△94.6	7	△81.7
2022年7月期第2四半期	568	—	45	—	51	—	41	—

(注) 包括利益 2023年7月期第2四半期 7百万円 (△81.9%) 2022年7月期第2四半期 41百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年7月期第2四半期	3.32	3.30
2022年7月期第2四半期	18.81	18.67

(注) 当社は2021年7月期第2四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年7月期第2四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年7月期第2四半期	671	105	15.6
2022年7月期	607	97	16.0

(参考) 自己資本 2023年7月期第2四半期 104百万円 2022年7月期 97百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年7月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年7月期の連結業績予想(2022年8月1日~2023年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,374	15.1	82	29.9	80	12.7	58	7.9	25.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年7月期2Q	2,281,100株	2022年7月期	2,281,100株
② 期末自己株式数	2023年7月期2Q	一株	2022年7月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年7月期2Q	2,281,100株	2022年7月期2Q	2,199,122株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項については、決算短信（添付資料）3ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う経済活動の影響は緩やかではあるものの回復基調で推移いたしました。一方で、原油をはじめとする資材価格の高騰や円安進行による物価上昇など、経済環境の先行きは依然として不透明な状況となっております。

当社グループの主要取引先である建設業界におきましては、公共投資は底堅く推移し、民間建設投資は回復基調が継続しておりますが、一方で、建設資材価格の高騰等の影響は続いており、今後も注視が必要な状況となっております。

このような経済環境の中で、当社グループは、DX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組みを加速させるため、BIMやCIMといった3次元設計技術の体制強化及び最新デジタルコンテンツ技術（CG、VR、AR、3次元測量など）の導入を積極的に行い、設計図面データとデジタルコンテンツ技術を融合させたビジネスモデルの付加価値向上を図ってまいりました。継続的に人材採用や技術者育成に注力し、建設設計に関わるワンストップサービス（意匠設計、構造設計、施工設計、測量設計）の充実と企業価値の向上を目指します。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は598,189千円（前年同期比5.3%増）、営業利益は1,098千円（同97.6%減）、経常利益は2,793千円（同94.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7,583千円（同81.7%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の業績は、以下のとおりであります。

①設計ソリューション事業

設計ソリューション事業の売上高は431,462千円（前年同期比4.2%増）、セグメント利益は92,829千円（同6.0%減）となりました。

②測量事業

測量事業の売上高は113,967千円（前年同期比12.1%増）、セグメント利益は39,123千円（同44.8%増）となりました。

③派遣事業

派遣事業の売上高は55,658千円（前年同期比3.6%増）、セグメント利益は13,411千円（同19.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は561,650千円となり、前連結会計年度末と比べ59,454千円増加（前連結会計年度末比11.8%増）いたしました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が19,247千円、棚卸資産が59,439千円増加した一方で、現金及び預金が20,338千円減少したことによるものであります。固定資産は109,930千円となり、前連結会計年度末と比べ5,051千円増加（同4.8%増）いたしました。これは主に、投資その他の資産が13,420千円増加した一方で、有形固定資産が2,536千円、無形固定資産が5,832千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は671,580千円となり、前連結会計年度末と比べ64,505千円増加（同10.6%増）いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は278,796千円となり、前連結会計年度末と比べ16,097千円減少（前連結会計年度末比5.5%減）いたしました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が24,442千円、受注損失引当金が7,036千円増加した一方で、未払費用が9,918千円、未払法人税が6,935千円、その他が32,646千円減少したことによるものであります。固定負債は287,364千円となり、前連結会計年度末と比べ73,073千円増加（同34.1%増）いたしました。これは主に、長期借入金が74,546千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は566,160千円となり、前連結会計年度末と比べ56,976千円増加(同11.2%増)いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は105,420千円となり、前連結会計年度末と比べ7,529千円増加(前連結会計年度末比7.7%増)いたしました。これは主に、利益剰余金が7,583千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は15.6%(前連結会計年度末は16.0%)となりました。

②キャッシュ・フローの概況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ20,338千円減少し、241,323千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、106,488千円の支出となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益2,793千円があった一方、売上債権の増加額19,247千円、棚卸資産の増加額59,439千円、その他の減少額34,371千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、10,496千円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,430千円、敷金の差入による支出4,237千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、96,744千円の収入となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出51,012千円があった一方、長期借入れによる収入150,000千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年7月期の連結業績予想につきましては、2022年9月14日付「2023年7月期決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

今後、業績予想を修正する必要がある場合は、速やかに開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	261,661	241,323
受取手形、売掛金及び契約資産	136,885	156,133
棚卸資産	77,761	137,201
その他	26,292	29,845
貸倒引当金	△406	△2,853
流動資産合計	502,196	561,650
固定資産		
有形固定資産	34,610	32,074
無形固定資産	29,093	23,260
投資その他の資産	41,174	54,595
固定資産合計	104,878	109,930
資産合計	607,075	671,580

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,925	4,101
1年内返済予定の長期借入金	86,367	110,809
未払費用	83,164	73,245
未払法人税等	9,841	2,906
賞与引当金	13,581	14,330
受注損失引当金	15,788	22,825
その他	83,224	50,578
流動負債合計	294,893	278,796
固定負債		
長期借入金	196,386	270,932
資産除去債務	12,996	13,013
その他	4,908	3,418
固定負債合計	214,290	287,364
負債合計	509,184	566,160
純資産の部		
株主資本		
資本金	94,031	94,031
資本剰余金	38,457	38,457
利益剰余金	△35,288	△27,704
株主資本合計	97,200	104,784
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	139	85
その他の包括利益累計額合計	139	85
新株予約権	550	550
純資産合計	97,890	105,420
負債純資産合計	607,075	671,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
売上高	568,073	598,189
売上原価	382,405	414,103
売上総利益	185,668	184,086
販売費及び一般管理費	139,908	182,988
営業利益	45,759	1,098
営業外収益		
受取利息	27	24
補助金収入	5,161	1,768
その他	3,299	2,899
営業外収益合計	8,488	4,692
営業外費用		
支払利息	2,081	1,724
為替差損	-	904
その他	491	368
営業外費用合計	2,573	2,997
経常利益	51,674	2,793
特別損失		
固定資産除却損	25	-
特別損失合計	25	-
税金等調整前四半期純利益	51,649	2,793
法人税等	10,281	△4,790
四半期純利益	41,368	7,583
親会社株主に帰属する四半期純利益	41,368	7,583

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
四半期純利益	41,368	7,583
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	167	△54
その他の包括利益合計	167	△54
四半期包括利益	41,535	7,529
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	41,535	7,529

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	51,649	2,793
減価償却費	11,392	11,133
のれん償却額	889	889
貸倒引当金の増減額(△は減少)	30	2,447
賞与引当金の増減額(△は減少)	△779	748
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△263	7,036
受取利息	△27	△24
支払利息	2,081	1,724
補助金収入	△5,161	△1,768
固定資産除却損	25	-
売上債権の増減額(△は増加)	△38,960	△19,247
棚卸資産の増減額(△は増加)	△24,433	△59,439
仕入債務の増減(△は減少)	△1,867	1,175
未払費用の増減額(△は減少)	△10,512	△9,918
その他	△16,993	△34,371
小計	△32,929	△96,821
利息の受取額	27	24
利息の支払額	△2,081	△1,618
補助金の受取額	5,161	1,768
法人税等の支払額	△1,000	△9,841
営業活動によるキャッシュ・フロー	△30,822	△106,488
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,260	△3,430
無形固定資産の取得による支出	△6,550	△224
敷金の差入による支出	△2,004	△4,237
保険積立金の積立による支出	-	△2,604
その他	28	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,787	△10,496
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△30,000	-
長期借入れによる収入	-	150,000
長期借入金の返済による支出	△42,844	△51,012
割賦債務の返済による支出	△466	△399
リース債務の返済による支出	△1,757	△1,843
株式の発行による収入	26,061	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△49,006	96,744
現金及び現金同等物に係る換算差額	157	△97
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△89,458	△20,338
現金及び現金同等物の期首残高	286,060	261,661
現金及び現金同等物の四半期末残高	196,602	241,323

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、2022年1月12日開催の取締役会決議に基づき、2022年1月28日を払込期日とする第三者割当増資による払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結会計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ13,030千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が94,031千円、資本剰余金が38,457千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、税金費用については、原則的な方法により計算しておりましたが、当社及び連結子会社の四半期決算業務の一層の効率化を図るため、第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、当該会計方針の変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	設計ソリューション 事業	測量事業	派遣事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	414,169	100,165	53,738	568,073	—	568,073
外部顧客への売上高	414,169	100,165	53,738	568,073	—	568,073
セグメント間の内部 売上高又は振替高	57	1,469	—	1,526	△1,526	—
計	414,226	101,634	53,738	569,599	△1,526	568,073
セグメント利益	98,716	27,027	11,215	136,959	△91,199	45,759

(注) 1. セグメント利益の調整額△91,199千円には、セグメント間取引消去2,044千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△93,243千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注2)
	設計ソリューション 事業	測量事業	派遣事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	428,867	113,663	55,658	598,189	—	598,189
外部顧客への売上高	428,867	113,663	55,658	598,189	—	598,189
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,595	304	—	2,899	△2,899	—
計	431,462	113,967	55,658	601,088	△2,899	598,189
セグメント利益	92,829	39,123	13,411	145,364	△144,265	1,098

(注) 1. セグメント利益の調整額△144,265千円には、セグメント間取引消去△41千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△144,224千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。